

## 今後の医療の「あるべき姿」に向けた視点

令和元年11月28日  
自由民主党社会保障制度調査会医療委員会

- 人生100年時代の国民の安心のため、以下のような医療を取り巻く課題を踏まえ、健康を望む国民一人ひとりの主体的な取組を可能とする環境を整備するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けて、疾病予防・早期対応から病気を抱えた後もその生活を支える医療のあるべき姿について議論していくことが必要。
  - ・ 団塊の世代が75歳以上を迎える中での高齢化による需要拡大への対応
  - ・ 生産年齢人口が減少する中での地域医療の確保
  - ・ 平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸へ向けた予防・健康づくりの強化、セルフケア・セルフメディケーションの推進
  - ・ 働き方改革に対応した医師の職場環境の変化と地域医療確保の両立
  - ・ ゲノム医療等最先端医療の導入やデータヘルス改革の推進
- 以下を内容とする医療のあるべき姿をまとめていくべき。
  1. 地域差を伴う「高齢化による需要増大」と「支え手減少」の進展などの環境変化に対応し、質の向上と効率改善を図り、地域で必要な医療を確保する
    - ① 地域医療構想の推進
    - ② 更なる医師偏在対策、地域における看護職員をはじめとする医療関係人材の確保・育成、復職支援、定着の推進
    - ③ 医師の働き方改革、医療職種の役割分担の見直し
  2. 患者中心の医療を深化させる
    - ① 外来機能の明確化と「かかりつけ医」の機能の強化
      - ・ 継続的な健康管理・疾病管理とナビゲート・紹介機能の強化
      - ・ 重症化予防のための療養指導の強化
      - ・ 健康づくり・予防の重視、仕事と治療の両立等
      - ・ 地域密着型の中小病院・有床診療所のあり方
    - ② 在宅医療の更なる深化と推進、訪問看護体制の強化、適切な遠隔医療の推進
    - ③ 健康寿命延伸のための予防・健康づくりから医療への一貫した流れの構築
      - ・ 看護職員やリハビリテーション関係職種をはじめとする多職種連携による予防・健康づくりの強化
      - ・ 健康・医療情報の連携・活用
    - ④ 地域における歯科医療機関の機能の強化
      - ・ 予防から治療への歯科疾患の継続的管理、周術期口腔機能管理等医科歯科連携の推進
    - ⑤ 地域における薬剤師・薬局機能の強化
      - ・ 服薬情報の一元的・継続的把握等の対人業務の強化、在宅訪問、予防・健康づくりへの積極的な関与
      - ・ 医療機関との連携の下でポリファーマシーや残薬の解消
    - ⑥ 医療のかかり方の変容へ向けた取組促進
    - ⑦ 尊厳と意思の尊重された人生の最終段階の迎え方支援
  3. 必要な医療を迅速に国民に届ける
    - ① 安全で質の高い先端的医療の普及
    - ② 革新的な医薬品、医療機器等が生み出される環境整備
    - ③ 必要不可欠な医薬品の安定供給体制の確保
- 上記のようなあるべき医療の姿の議論を深めることを前提に、世界に冠たる国民皆保険制度を将来の世代に受け継いでいくため、医療を取り巻く環境の変化や多様な国民のニーズに柔軟に対応し、あるべき医療の姿を支えるものとして、財源の確保にも留意しつつ、給付と負担の見直しについても、以下の視点を踏まえ、今後議論を深めていくべき。

### <検討の視点>

- ・ 質が高く、効率的な医療の提供
- ・ 負担能力に応じた負担
- ・ 現役世代の負担増の抑制